

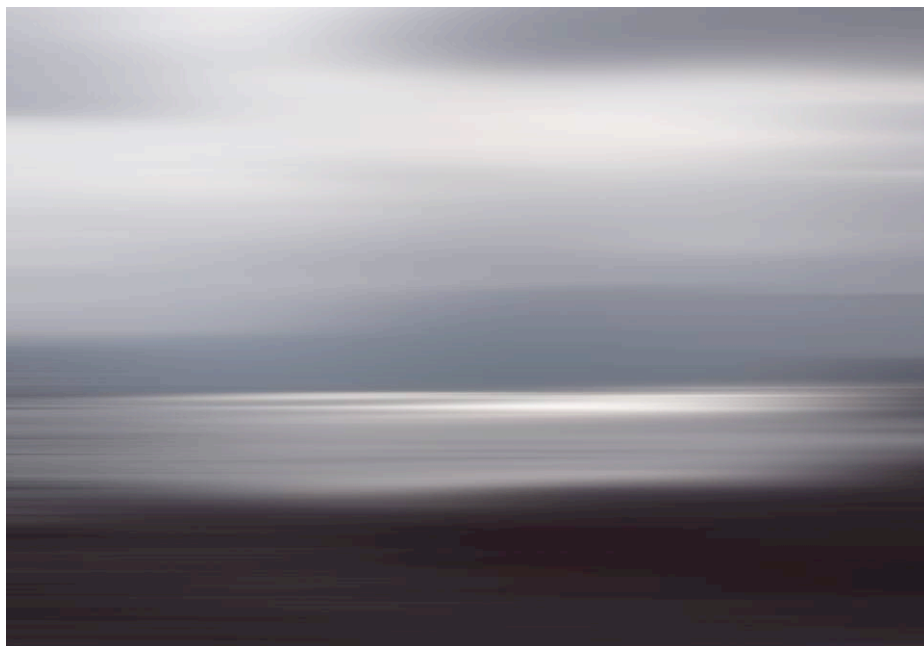
Hara Museum of Contemporary Art

Press Release 2010/10/26

崔在銀 展 —アショカの森—

2010年9月11日 [土] - 12月26日 [日]

原美術館



[図版ア]「幻想の裏面 1003017080220」 2010年 カラー写真

今秋、原美術館（東京都品川区北品川 4-7-25 〒140-0001）では、ソウル生まれの女性アーティスト、崔在銀（チェ ジェウン）の、日本の美術館における初個展を開催いたします。

崔が本展で展開するのは、“森”。「アショカ王の5本の樹の森」という故事に想を得て、立体、写真、映像作品などで構成する新作のインスタレーションです。アショカ王は、仏教を守護したことで知られる古代インドの皇帝ですが、彼は、国民ひとりひとりが、5本の樹を植え、それを“森”として見守ることを提唱したと言われています。5本の樹とは、薬効のある樹、果実のなる樹、燃料になる樹、家を建てる樹、そして花を咲かせる樹。

ここでの〈樹〉のイメージは時間を横切る存在であり、永遠に向かって手を差し延べながらも衆生に限りない安らぎを施す深淵から湧き立つような慈悲の存在でもある。これは古代から今日に至るまで変わらない人間と樹との関係であり、もう一方ではその永遠たる長さにより、かえって世の中のすべてが時間の変化を通して変わっていく姿を見せてくれていることでもある。

ボルヘスは、「人間のあらゆる精神的な体験は時間の体験に還元される」と言っている。〈樹〉はまさにそのような精神的な媒介者なのである。

—作家によるコンセプトノートより—





森が内包する大いなる生命の流れと、樹と人間との悠久の交感に思いを巡らせながら、崔は館内に“森”を誕生させます。

【出品作品】

ギャラリー1: 「アショカの森」2010年 インスタレーション
ギャラリー2: 「Forever and a Day」2010年 ビデオ インスタレーション
ギャラリー3: 「森はいつからそこにあっただけしょうか?」2010年 ビデオ インスタレーション
ギャラリー4、5: 「幻想の裏面」2010年 カラー写真

【開催要項】

展覧会名 「崔在銀 展—アショカの森—」(チェ ジェウンてん—あしょかのもり—)
会期 2010年9月11日[土]—12月26日[日]
主催/会場 原美術館 東京都品川区北品川4-7-25 〒140-0001
Tel: 03-3445-0651 (代表) Fax: 03-3473-0104 (代表)
E-mail: info@haramuseum.or.jp ウェブサイト: <http://www.haramuseum.or.jp>
携帯サイト: <http://mobile.haramuseum.or.jp>
ブログ: <http://www.art-it.asia/u/HaraMuseum>

後援 駐日韓国大使館 韓国文化院
助成 財団法人MRAハウス
協賛 SAMSUNG、Maeli Dairies Co., Ltd.    
協力 Kukje Gallery

開館時間 11:00 am-5:00 pm (祝日の11月3日を除く水曜日は8:00pmまで開館/入館は閉館時刻の30分前まで)
休館日 月曜日(9月20日、10月11日は開館)、9月21日、10月12日
入館料 一般1,000円、大高生700円、小中生500円/原美術館メンバーは無料、学期中の土曜日は小中高生の入館無料/20名以上の団体は1人100円引
交通案内 JR「品川駅」高輪口より徒歩15分/タクシー5分/都営バス「反96」系統「御殿山」停留所下車、徒歩3分
毎週日曜のみ、品川駅高輪口より無料ミニシャトルバス「ブルンバツ!」を運行(協賛:ブルーム バークL.P./アーティスト:鈴木康広/詳細はウェブサイトをご覧ください)
ギャラリーガイド 日曜・祝日には当館学芸員によるギャラリーガイドを実施(2:30pmより約30分)
関連イベント 9月18日[土] 2:30-4:00pm 対談/崔在銀×南島宏(女子美術大学教授)
10月31日[日] 2:30-3:30pm 講演会/「樹が教えてくれること - 時間と関係」
中村桂子(JT生命誌研究館館長) ※要予約。Tel: 03-3445-0669 E-mail: info@haramuseum.or.jp

【崔在銀について】 Choi, Jae-Eun

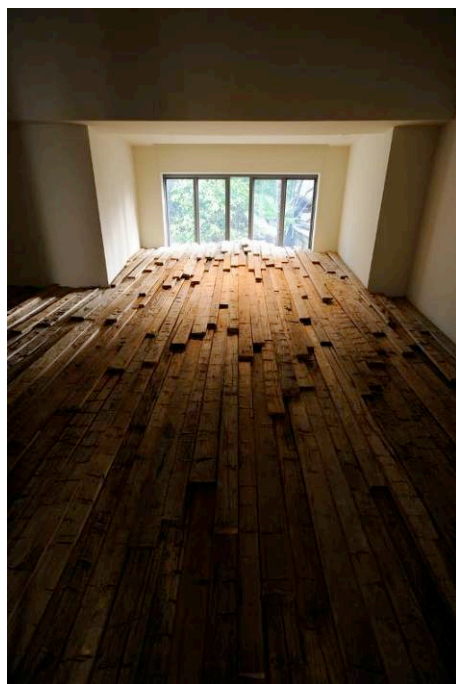


1953年、ソウル生まれ。76年より東京に在住し、草月流で華道を学ぶ。84年から3年間、草月流三代目家元、勅使河原宏のアシスタントとなる。95年には、日本代表の1人として第46回ヴェネチアビエンナーレに出品するなど、国際展への参加多数。2001年には、映画『On The Way』を発表し、映画監督としても活躍。

1976年の来日を機に、日本の伝統芸術である生け花に魅せられた崔は、その成り立ちから革新性のある草月流と出会い、後に、三代目家元であり映画監督でもあった勅使河原宏のアシスタントとして、器に花を生けるという生け花の表層だけでなく、その空間概念や宇宙観をも学びました。そして自身の豊かな感性と共鳴させながら、作品をインスタレーションというかたちに昇華させていきました。植物や水、空気、火、土などを素材として、植物の生命が育まれ、枯渇してゆく時間の流れに人間の一生を重ね合わせる

初期の作品は、そのアイデアにおいてもスケールにおいても、伝統的な生け花の枠を大きく超えるものでした。1986年には、「ワールド アンダーグラウンド プロジェクト」と称し、韓国の慶州や福井県の今立、欧米やアフリカなど、さまざまな土地でプロジェクトを開始。原美術館が所蔵する『モーツァルトへのオマージュ』(1988年)もそのうちの1点です。和紙を地中に埋め、時を経てから掘り出すこの作品は、作品の完成を作家の手ではなく、各地の地中の環境に委ねるといった画期的なものでした。アート(ART)という言葉は、本来、人間の手による行為そのものを意味しますが、このプロジェクトにおける崔自身の行為はわずかであり、作品完成までのプロセスのほとんどは自然の働きに因るといって、アートの根幹を揺るがすものでもありました。やがて彼女は顕微鏡を覗き込み、ミクロの世界をモチーフとした作品も発表するようになりました。このように、崔の表現の形態は変化していきましたが、“生命”について深く考える視点は全作品を通して貫かれています。

【広報用図版】 ※図版は他にもございます。お問い合わせください。
掲載時には必ずクレジットをご記載ください。またトリミング、文字乗せはご遠慮ください。



[図版イ]



[図版ウ]

[図版ア] 崔在銀 「幻想の裏面 1003017080220」 2010年 カラー写真

[図版イ] 崔在銀 「アショカの森」 2010年 インスタレーション 撮影：武藤滋生

[図版ウ] 崔在銀 「Forever and a Day」 2010年 ヴィデオインスタレーション 撮影：武藤滋生

【本展についてのお問い合わせ】

原美術館 松浦・野田(広報)／坪内(本展担当学芸員) Tel: 03-3280-0679 Fax: 03-5791-7630 (いずれも広報直通／掲載の際には代表番号をご掲載ください。) E-mail: press@haramuseum.or.jp <原美術館および別館ハラ ミュージアム アークはブログおよびツイッターで情報発信中。> <http://www.art-it.asia/u/HaraMuseum> <http://twitter.com/haramuseum>